

# 平成29年 新年のご挨拶



揖斐川町長

富田和弘

輝かしい新春を迎え、町民の皆様にとって、本年も良い1年でありますように、心からお祈り申し上げます。

昨年は、町の最上位計画である「揖斐川町第2次総合計画」がスタートしました。この計画が目指すまちの将来像「自然健康のまち いびがわ」の実現に向けて、揖斐川町に暮らすわたしたち一人ひとりが、地域の課題解決に向けてそれぞれの立場から知恵を出し、ともに考え、支え合い、自然とともに健康で幸せに暮らせるまちをみんなで創っていきけるよう、町政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

私は、先の町長選におきまして、町民の皆様からのご信任を賜り、町政を担わせていただくこととなりました。皆様方から寄せられた期待の大きさを実感し、身の引き締まる思いと同時に、課せられた使命の大きさと重責を厳粛に受け止めております。

うな町にするのか、行政を運営するにあたっては、多くの課題があり難しい時代になっております。少子高齢化による人口減少や過疎化の進行、合併に伴う財政支援措置の段階的縮小、東日本大震災を契機とした防災やエネルギー問題への意識の高まり、町民ニーズの多様化など、自治体を取り巻く情勢は大きく変化しております。

本町には、揖斐川をはじめとする清流や豊かな森林など、これまで町民の暮らしを支え、町民とともに暮らしてきたかけがえのない自然資源や、先人たちによって守り、受け継がれてきた歴史や文化が数多く残されております。

こうした自然や歴史など町の宝を守り、活かすことで、健康で豊かな暮らしを実現することが出来ると考えております。

合併以降、防災センター兼庁舎、地域交流センター「はなもも」、幼児園などの基盤整備や、国体、全国育樹祭、

いびがわマラソン等の行事を通して、合併10周年のキャッチフレーズ「つながった まちもむらもひとのわも」の土台はできたと認識しております。

今後は、少子高齢化、人口減少の課題に町一丸となって取り組み、飛躍していく時だと考えております。

現在、東海環状自動車道の大野・神戸インターチェンジが供用開始に向けて整備が進められております。このインターチェンジにつなぐ都市計画道路を整備し、昨年度より岐阜県側のトンネル掘削工事が着工となりました冠山トンネルを結び、北陸と中京圏を結ぶ大動脈にして、流入人口の増加につなげたいと考えております。また、市街地の区画整理を促進し、企業誘致や工房などの誘致と地場産業の活性化による雇用の場の創出を図り、人口減少対策に取り組んでまいりたいと考えております。

町民の皆様が、10年後、20年後、さらには50年後、「この町に住んでよかつ

た」といわれるような町づくりを行っていくために、4つの視点に立って、町づくりを進めてまいりたいと考えております。

## 1. みんなで創る「いびがわ」

町民と行政が一緒に政策をつくる場「いびがわ未来センター（仮称）」の設置、女性の意見の積極的な反映と活躍の場の拡大、民間企業からの採用枠の検討、行政の見える化の推進を行ってまいりたいと考えております。

## 2. 優しさあふれる「いびがわ」

子どもが楽しめる身近な公園の整備、給食費・修学旅行費の無償化、保育料負担の軽減、医療・福祉の連携による地域包括ケアシステムの構築「歩きのススメ」による健康寿命の増進を行ってまいりたいと考えております。

## 3. 個性が輝く「いびがわ」

町・J・A いび川・商工会・森林組合

の4機関連携強化による地方創生、岐阜大学などと連携した地場産業の活性化、自然、伝統文化、観光の融合による交流人口の拡大、企業誘致・工房誘致を行ってまいりたいと考えております。



新年あけましておめでとうございませす。

町民の皆様におかれましては、ご家族おそろいで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、町議会に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、「揖斐川町第二次総合計画」の初年度で、町民の皆様と行政が協働・連携した新たなまちづくりがスタートしました。

このような中で、厳しい経営が続いている養老鉄道につきましては、沿線

4. 未来へつなぐ防災に強い「いびがわ」道路ネットワークの整備、消防、防災施設の強化、空き家取り壊し費用の一部助成、更地固定資産税の一部免除、空き家改修事業補助金の拡充、移住・定住支援を行ってまいりたいと考えております。

### 揖斐川町議会議長

## 大久保 為芳

市町、近畿日本鉄道(株)、養老鉄道(株)の合意が整い、本年中に新しい事業形態での事業を開始することが決定しました。引き続き、沿線自治体、企業、民間団体などと一致団結して、養老鉄道の再生に取り組んでいきたいと考えています。

また、永年の悲願でありました、福井県池田町と揖斐川町を結ぶ国道417号「冠山峠道路」につきましては、昨年より揖斐川町区間のトンネル掘削工事が開始され、北陸との人、物、情報の交流発展につながる道路として、早期完成が期待されます。

しかしながら、町づくりは、行政のみでできるものではありません。行政と町民の皆様が力を合わせることであり、きめ細やかな町づくりが出来るものと考えております。住んでよかった、暮らしてよかったと、次世代へ自信と誇りを持って引き継ぐために、町民の

谷汲緑地公園では、町の豊かな森林を活用した「森のようちえん」体験会を開催し、県内外から多くの親子連れにご参加いただきました。これは、子どもが自主性を大切にした新たな育児スタイルであり、揖斐川町ならではの取り組みとして注目されています。

一方、当町を取り巻く環境は、依然として少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少によるまちづくりの担い手不足が大きな課題となっており、魅力ある定住環境の創造が求められています。

さらに、昨年四月に発生した熊本地震を踏まえて、「自助」・「共助」・「公助」の連携強化が求められ、地震、水害、原子力などあらゆる災害に対する地域防災力の向上が喫緊の課題にもなっています。

まちの将来像である「自然健康のまち いびがわ」の実現には、揖斐川町

皆様とともに町づくりを進めてまいりたいと考えております。どうか本年も、町政に対する変わらぬご支援と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

で暮らす私たち一人ひとりが、町の自然や文化、歴史を守り、活かしながら、町民の皆様と行政が丸となった取り組みが必要不可欠であります。引き続き、皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地方分権の進展に伴い、町民の代表である議会及びその議員の果たすべき役割や責務は、ますます増大しています。

私も議会といたしましては、一年より議会改革検討特別委員会を設置し、より開かれた議会、活性化した議会を目指して協議を重ねるところでございますが、今後とも町議会に対しまして一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が町民の皆様にとりまして、健康で喜びと幸せに満ちた一年となりまして、新年のご挨拶といたします。